

のら猫に**エサ**を与える人も

のら猫に**困**っている人も

みんなで考えること

～のら猫が増えないために～



【表紙イラスト】米子高等学校 山邊 優輝 さん

「エサをやっているだけ」そう思って自分には関係ないと思いませんか？

道端で出会った痩せてお腹を空かせた猫を「かわいそうだから」、「かわいいから」といって、エサを与えなくなったことはありませんか？

動物は、生活に安らぎや潤いを与えてくれます。その一方で、無責任なエサやり（置き餌＝頭数増加、排泄物の放置＝衛生環境悪化など）に関するトラブルが発生しています。

この冊子は、猫好きも猫嫌いも「のら猫くらいいたっていいじゃないか。」そんなふうに思ってもらえるよう、みんなで関わっていくための手引きとして作成しました。

無責任なエサやりが引き起こす問題を知っていますか？

①集まる



エサやりを行うと、のら猫が周辺地域に住みついてしまいます。また、他の地域からの猫が寄ってきます。

②増える



繁殖力が高く、増えることで被害は広がります。メス猫は、生後4～12ヶ月で出産でき、年に2～3回出産可能、1回に1～5頭を産みます。

③不衛生



置きエサは、不特定の動物が寄ってきたり、散らかったり、残ったエサに害虫がわいたり、悪臭がする等地域が不衛生になります。

④荒らす



糞や尿の被害、鳴き声、畑荒らし、ノミが増えるなどのご近所トラブルが発生します。

そもそも猫ってどんな動物？

- エサについて … ネズミや野鳥を捕まえる肉食ハンターという性質を持った生き物。
- 寿命について … 室内飼育だと20年生きることもあるが、のら猫は3～5年程度。
- 繁殖について … 早春から晩秋までが発情期。1年に2～3回妊娠・出産をする。
- 病気について … のら猫はウイルスや細菌、寄生虫による病気や感染症にかかるリスクが高い。
- 性格について … 一般的には繊細で、環境の変化や突然の大きな音、騒々しい環境を嫌う。

地域の協力で、のら猫問題を解決しましょう！

★ 地域の問題として、皆さんで取り組むことが解決への近道です

人によって猫に対する考え方は様々ですが「のら猫を減らしたい」という気持ちは共通なのではないでしょうか。のら猫をめぐる問題は個人の力で解決することが難しく、地域の皆さんと一緒に考え対策することが重要です。のら猫を減らし、のら猫トラブルゼロの地域を目指してみませんか。

★ のら猫の適切な管理として

① 「エサやり」のルールを決める

エサは決まった時間と場所であげて食べ終わったら片付けます。置きエサはカラスなど他の動物や虫のエサになり迷惑です。エサの置きっぱなしは禁止です。（※ごみの不法投棄と一緒にです。）猫の頭数分のエサ容器を用意し1頭ずつ個別にエサをあげます。給餌時間の短縮にもなり個体を管理しやすく、流入してくる猫についても対処しやすくなります。

② トイレの設置と管理

猫はトイレの躰がしやすい動物です。食事の後比較的近くの落ち着ける場所で土や砂があるところに排便します。この性質を利用して、他人の敷地内で排便しないようトイレを工夫します。簡単な方法は、ものかげに園芸用の砂や砂利をほんの少し盛り糞で臭い付けします。（できるだけこまめに糞を片付けます。）

③ 不妊去勢手術（TNR活動）の実施

メス猫は生後4～12ヶ月で子猫を産めるようになり、年に2～3回出産可能で1回に1～5頭の子猫を産みます。放っておくと1組のオスとメスがあっという間に何十頭にも増えてしまいます。産まれた子猫を全て幸せにできない場合は、不妊去勢手術をしましょう。

★ 米子市ではのら猫の不妊去勢手術費用の助成をしています

米子市では、市内で捕獲したのら猫に不妊去勢手術を受けさせ、その費用を負担された方に対し、その手術費用の一部を補助しています。

※ 詳しくは、右側にあるQRコードからホームページをご覧ください。



🐾 TNR活動ってなに？

TNR活動とは、のら猫を捕獲して(Trap)、不妊去勢手術を行い(Neuter)、元の場所に戻す(Return)活動のことです。不妊去勢手術をすることで、子猫が増えないことに加え、繁殖に対するストレスが減ることから猫の性格も穏やかになり、発情期の鳴き声や他の猫とのケンカなどの問題行動が減るといった様々なメリットがあります。

※地域の取組として、自治会など広い範囲で実施するとより効果が上がります。

のら猫が増えることによる問題とは？

● 過剰繁殖問題

無責任にエサを与えることで、栄養状態が良くなり、のら猫の数がどんどん増える。繁殖力が非常に高いため数年で数十頭にもなる。

● 衛生問題

無責任なエサやりによってのら猫が集まり、ふん尿による悪臭やエサの腐敗、ノミの発生等により、近隣住民の生活環境の衛生面に問題を引き起こす。

● 近隣住民とのトラブル問題

迷惑行為として警察に通報されるなど、エサやりをやめさせたい近隣住民との間でトラブルが起こる。

● 健康（病気）問題

適切でない食事や、衛生的でない環境はのら猫の健康を害するリスクが高まる。また、病気や寄生虫を持っていることが多く、猫から人に感染する病気もある。

【まとめ】

のら猫は、一見自由気ままな生活を送っているように見えますが、暑さ寒さだけでなく交通事故や感染症の危機に常にさらされるなど、厳しい環境の中で過ごしています。

また、のら猫が産んだ子猫は、母猫に産み捨てられたり生育不良で命を落としたりしてしまうこともあります。

のら猫が増えてしまった原因や地域を取り巻く環境は様々であり、のら猫対策はこうした猫たちとどのように接していくべきかを考え、地域の理解を得ながら活動を進めていくというものであって、その取組は□で言うほど簡単なことではありません。また、地域の関係者の理解を得るには、多くの場合時間がかかります。

私たちは、のら猫が地域で問題となる原因を十分に考え、それを取り除くことで問題を解決していく取組を行う必要があります。

🐾『地域猫』は、地域で猫を飼うこと？

『地域猫活動』というのは、もともと「のら猫を減らすために、不妊去勢手術をして子猫が増えないようにし、地域の合意の上で、今いる猫が寿命を全うするまで管理していく」という活動です。最近では、「地域で猫を飼うこと」という意味になったり、不妊去勢手術をすることが「地域猫」活動であるという意味で用いられるなど、言葉がひとり歩きしている状況が伺えます。

地域の中で人と共に生きる存在として、地域で猫を飼い続けていくということではなく、「のら猫を減らすことで周囲への被害をなくし、周辺環境を良くしていく」という、猫を迷惑に思っている人にも猫が好きな人にも共通の利益を示し、地域の理解を得ていくことが必要です。